

事業所名 独立行政法人国立病院機構長崎病院

支援プログラム

作成日

令和7 年

1 月

10 日

法人（事業所）理念	重症心身障害者（児）が日常生活における基本的動作を習得し集団生活に適応することができるよう、当該障害者（児）の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて創作活動、機能訓練、介護方法の指導、社会適応訓練、生活、相談、レクリエーション等を適切に行います。					
支援方針	在宅の重症心身障害者（児）の方々が地域でご家族と一緒により良い生活ができるように支援することを目的としています。温かい環境のもとお一人お一人を大切に、医療的ケアを行い日中活動が一体となった集団生活を提供します。医療的ケアのある利用者がほとんどの為、それぞれの障害からくる症状の観察やケアは、スタッフが統一した対応ができるようにしています・また何かあればすぐに医師やさまざまな職種のスタッフが対応できる体制をとっています。					
営業時間	9 時	30 分から	15 時	30 分まで	送迎実施の有無	あり
支 援 内 容						
本人支援	健康・生活	利用者の健康の確認を行うと共に、表情や普段と違う様子を確認し健康管理を行います。個々の障害の症状などを把握し、異常の早期発見に努め重症化させないようにします。また、食事、排泄、日中活動を行うことで覚醒を促し、夜間の睡眠の確保や生活のリズムを作ることができるようにします。				
	運動・感覚	日中活動を通して視覚、聴覚、触覚、嗅覚などの感覚を十分に活用できるように、様々な体験を提供します。日中活動の内容を検討しながら色々な内容を取り入れることで、個々が「楽しい」「うれしい」等の自分の気持ちを表現できるように個々にあった環境を提供しながら支援します。リハビリテーションを通して側弯の進行を防ぎ、正しい姿勢保持ができるように支援します。				
	認知・行動	朝の会や終わりの歌、日付、天気など時間の認識や感覚、季節の行事を通し時間の経過や季節の変化などを、少しでも感じる事が出来るように支援します。また、遊びを通して、触れる感覚を感じたり、音楽に合わせたリズム遊びや日中活動でのゲームや制作を通して、興味を引き出せるように支援します。				
	言語コミュニケーション	障害の程度、興味、関心事などに応じて言葉によるコミュニケーションだけではなく、表情や身振り手振り、物に触れる、見るなど環境の理解と意思のやり取りが行えるように支援します。具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける事で、自発的な発声ができるように支援します。声を出したり、手を上げてできた事を知らせるなど自分の意思を表出することができるように支援します。				
	人間関係社会性	基本的な信頼感を持つ事が出来るように環境に対する安心感や、人に対する信頼感を育む場を提供します。日中活動を通して、ルールや順番を守る事、協調した関係を持てるように支援します。声掛けを行う事で、他者との良好な関係形成ができるようにします。また、日中活動で共に活動することで、仲間づくりにつながるように支援します。				
家族支援	連絡ノートや送迎時の会話で随時情報共有し、家族の悩み等相談に対処します。家庭で生活が持続できるようにショートスティや、ヘルパーなど社会資源が必要な時には各部署と連携し対応します。	移行支援	学校や関連の福祉施設との情報を共有し、担当者会議を通し次の過程にスムーズに進めるように支援します。			
地域支援・地域連携	院外活動を通して、地域のイベントの参加など地域との交流が少しでもできるように支援します。	職員の質の向上	施設内での研修（虐待防止・メンタルヘルス・感染対策・窒息時の対応など）へ参加しています。			
主な行事等	誕生日会 4月：花見 7月：夏祭り 10月：紅葉体験 12月：クリスマス 1月：お正月（書初め）2月：豆まきなどの季節のイベント					